

## 郡上農林事務所の普及活動状況 令和6年12月31日現在

### 今月の重点活動

#### ■水稲 めいほう米づくり連絡協議会が栽培講習会を開催

めいほう米づくり連絡協議会の栽培講習会が、12月17日に開催され、生産者・関係機関の約30名が出席した。

農業普及課から、「郡上おいしい米コンテスト」の結果や各種実証ほの結果を説明した。また、JAから荷受状況や資材の紹介、市農業アドバイザーからブランド化に向けた栽培法等を説明した。

当協議会は、「郡上おいしい米コンテスト」や道の駅のイベント等に積極的に参加しながら、明宝産米のブランド化や地域の活性化を目指しており、協議会員の高温対策として取り組んだ「きぬむすめ」が「第21回お米日本一コンテストinしずおか」で見事入賞を獲得した。農業普及課では、今後も郡上産米のブランド化に向けた取り組みを支援していく。



【栽培講習会の様子】

### 郡上の農業・農村を支える人材育成

#### ■就農支援 就農研修希望者と面談を実施

市外在住の学生から、就農に向けて管内の花き生産者の下で研修を希望する旨の相談があった。このため、農業普及課では関係機関と連絡調整を行い、12月11日に、研修受入生産者、市、ぎふアグリチャレンジ支援センター、農業振興課と共に研修希望者との面談を行った。

農業普及課から研修希望者に就農相談台帳の項目について聞き取りを行い、研修の意思を再確認し、受入生産者と研修希望者の両方から希望する研修内容について調整を行った。さらに研修後の就農方針を固めるよう指導するとともに、研修中、就農時に活用できる支援制度や就農に向けたスケジュール感についても説明し、研修から就農までの流れの情報共有を図った。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら研修から就農までの支援を続けていく。



【研修希望者との面談】

### 郡上農畜水産物のブランド展開

#### ■夏秋いちご 令和6年度出荷反省会を開催

「ひるがの高原いちご組合」の出荷反省会が12月7日に郡上高原ホテルで開催された。生産者、市場担当者、関係機関が出席し、今年の出荷販売状況、各試験調査結果等を報告した。

今年は収穫終盤も気温が高い日が続き、栽培には大変苦労されたが、単価は過去最高となり、販売金額は昨年よりやや上回った。

農業普及課からは、病虫害防除、品種試験結果および天敵導入試験結果を説明した。

農業普及課では、これからも農業技術センター等関係機関と連携して現地試験を実施し、産地の課題解決に向けて活動する。



【試験結果の説明】

## ■夏だいこん 「ひるがの高原だいこん生産出荷組合」が通常総会を開催

第52回「ひるがの高原だいこん生産出荷組合」通常総会が12月10日に、生産者、農林事務所、市、JA等の関係機関、市場等流通関係者30数名が出席し開催された。

本年も暖冬による越冬害虫の多発や夏期の高温乾燥など、栽培に苦慮することとなったが、当組合の10a当りの出荷量は、過去5ヵ年平均と同等以上を維持するなど、栽培努力が実績に結びつく結果となった。また、当組合産だいこんの品質等に対する評価と、競合する他県産地が縮小する背景もあり、単価は過去5ヵ年平均比111%と高く、市場からは強い需要が示唆された。

農業普及課では、適品種選定や病虫害防除などの技術面に加え、GAPの取組推進等を、生産出荷組合と連携しながら継続支援し、市場ニーズに対応した生産出荷活動および夏だいこん産地の拡大に努めていく。



【通常総会の様子】

## ■夏秋トマト 夏秋トマト部会が販売実績検討会を開催

「郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会」が12月20日に販売実績検討会を開催し、今年度のトマトの生産・販売実績の検討と出荷成績優秀者等の表彰を行った。

今年は、昨年以上に暑い夏で、栽培には大変苦労された年であったが、販売金額は昨年より7%増加した。農業普及課からは、高温対策や害虫防除等のポイントについて説明し、次年度の出荷量向上に繋がるよう技術指導を行った。

また、今年度の成績優秀者や功労者5名の表彰が行われ、生産者の栽培意識向上が図られた。

農業普及課では、持続的な夏秋トマト産地づくりを目指して今後も支援を続けていく。



【農林事務所長賞を受賞した生産者（右）】